

公立大学法人島根県立大学  
平成27年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成28年8月  
島根県公立大学法人評価委員会

## 1 評価にあたって

公立大学法人島根県立大学の平成27年度の業務実績に関する評価については、「公立大学法人島根県立大学の各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」に基づき、以下のとおり実施した。

### (1) 島根県公立大学法人評価委員会委員

	氏名	役職
委員長	服部 泰直	国立大学法人島根大学長
委員	渋川 あゆみ	助産師
委員	服部 京子	元県立飯南高等学校長
委員	三島 明	公認会計士
委員	宮脇 和秀	(株)ミック代表取締役社長

### (2) 評価の方法

- ①年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により実施した。
- ②「全体評価」は、次に掲げる「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について評価を行った。
- ③「項目別評価」は、大学法人から提出された業務実績報告書を検証し、年度計画の記載事項ごとに5段階(5～1)で評価するとともに、中期目標項目別にAA～Dの5段階で評価を行った。なお、「Ⅱ大学の教育研究等の質の向上」に関する項目については、5段階評価ではなく、進捗状況・成果を総合的に評価した。

#### [中期目標項目]

I	社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり
II	大学の教育研究等の質の向上
III	自主的、自律的な組織・運営体制の確立
IV	評価制度の充実及び情報公開の推進
V	その他の業務運営に関する重要事項

#### [中期目標項目別の評価基準]（「Ⅱ大学の教育研究等の質の向上」に関する項目を除く）

評価	基準
AA	特筆すべき進捗状況にある (評点平均値 4.3～)
A	順調に進んでいる (評点平均値 3.5～4.2)
B	概ね順調 (評点平均値 2.7～3.4)
C	やや遅れている (評定平均値 1.9～2.6)
D	大幅な改善が必要 (評定平均値～1.8)

評点平均値：年度計画各項目を5点満点で評価し、中期目標項目ごとに平均値を算出したもの。

## 2 全体評価

### (1) 総評

島根県は、平成19年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人島根県立大学を設立した。そして、平成19年度から平成24年度までの第1期6年間に達成すべき目標(中期目標)を指示した上で、大学運営の自主性、自律性を高める大学改革を行った。

第2期中期目標期間においては、業務運営の効率化はもちろんのこと、大学における教育研究活動を活性化させ、地域や時代の新たな要請に機動的に対応し、島根の特色を生かした魅力ある大学づくりを目指して引き続き取組を進める必要がある。

平成27年度の法人運営・教育研究については、前年度の業務実績評価を踏まえた改善もみられ、中期目標の達成に向けて年度計画を順調に実施しているものと認められる。一部留意を要する点がみられるものの、中期計画の進捗面では、特に大きな遅れや改善を要する事項はみられなかった。

当評価委員会が特に高く評価する点をキャンパスごとに掲げると以下のとおりである。

#### ○浜田キャンパス

- ・地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)による地域を担う人材を育成するプログラムを本格スタートさせた。
- ・学生サークルが主体となった、浜田市弥栄町の地域の方との農作業活動、地域の子どもの合宿・クリスマス会の開催や、地域資源を生かしたビジネスプランコンテストでの提案など、学生による積極的な地域貢献活動が行われた。
- ・県立大学と留学先の大学双方の学位を取得できるダブルディグリー制度により、2名の留学生を韓国・蔚山<sup>ウルサン</sup>大学校へ派遣し、定着化を図るとともに、海外研修、留学の派遣、受け入れに努め、グローバル人材の育成を図った。また、新たに海外の5大学と交流協定を結び国際交流の環境を整えた。

#### ○出雲キャンパス

- ・四年制大学化後初めての卒業生を輩出し、就職率100%を達成した。
- ・平成28年4月に大学院看護学研究科開設が実現でき、同6月の認定看護師教育課程開設に向け、新たなニーズに応えた高度な看護人材を養成するための体制整備を着実に進めた。
- ・出雲キャンパス支援ネットワークの協力を得て、出雲市駅前にサテライトキャンパスを設置し公開講座を行うなど、教育機関として地域のニーズに応え、学習の機会を提供した。

### ○松江キャンパス

- ・ 社会人学び直しのための「履修証明プログラム」開設の準備を進め、健康、保育、文化・観光の分野における 8 コースで、地域課題を解決する専門力養成を図るプログラムを確立した。
- ・ 就職率が 98.5%となり、昨年度の 97.4%を上回って平成 19 年の法人化による短大部設置以降、最高の数値となった。

一方、今後の取り組みを期待する観点から留意を要する点は次のとおりである。

### ○浜田キャンパス

- ・ 入学者に占める県内出身者の割合や県内就職率については、一定の成果がみられるものの、更なる増加が望まれるため、一層の取り組みを期待する。

以上のことから、第 2 期中期目標期間 3 年目である平成 27 年度の業務運営は、「**中期目標の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

### 3 項目別評価

#### I 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり

##### (1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
  - ・社会情勢の変化や地域のニーズに対応する、大学の新たな体制・組織づくりへの取り組みが認められることから、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均 4.00
---	----------	-----------

##### (2) 実施状況

###### ① 評価にあたって考慮した事項

###### ○浜田キャンパス

- ・社会情勢の変化に的確に対応するため、浜田キャンパスの将来につながる魅力向上策について、将来構想検討委員会を立ち上げ学部教育のあり方、地域連携機能の強化などについて検討を行った。

###### ○出雲キャンパス

- ・主体的に探求できる研究能力を備え、地域医療を牽引する優れた看護実践者を育成することを目的とした大学院看護学研究科について、平成28年4月の開設に向け準備を進めた。

###### ○松江キャンパス

- ・松江キャンパスの四年制化につき、県の方針決定（①3学科全ての四年制大学化、②健康栄養学科の出雲キャンパス移転、③短期大学部の一部学科の存置）をふまえ、平成30年4月の設置に向けて、申請準備、出雲キャンパス新棟整備にかかる設計、教員確保など着実に準備を進めた。

###### ② 特に顕著な成果がみられた事項

- ・出雲キャンパスの大学院看護学研究科の設置につき、平成27年8月31日付けで文部科学省より設置認可を受け、平成28年4月の開設に至った。地域医療の健康課題に的確に対応するため「がん看護学」「精神看護学」「高齢者リハビリテーション看護学」「地域保健学」の4つの研究領域を設けた。また、開設初年度を、定員を充足する5名の入学者を確保の上順調にスタートさせ、島根県の地域医療の質向上のための人材育成に努めている。

③ 今後の取り組みが期待される事項

○浜田キャンパス

- ・浜田キャンパスの将来構想（魅力向上策）について、目標とした年度中の取りまとめには至らなかった。浜田キャンパスでの検討の後は、法人にて検討することとされているが、社会情勢の変化に対応し、大学の魅力をより向上させる検討が早急になされることを期待する。

## Ⅱ 大学の教育研究等の質の向上

### (1) 高い知性と豊かな人間性を育み、社会に役立つ人材を輩出する大学

#### (評価の視点)

- ・質の高い教育の提供や学生に対するきめ細やかな支援がなされているか。

#### (特筆すべき点 (注目される点))

##### ○浜田キャンパス

- ・総合政策学部は一般入試志願倍率が 8.39 倍 (公立大学社会科学系学校 33 校中 9 位) となり、前年度の 8.12 倍に続き高い倍率を維持している。
- ・キャリアセンターによる学内企業説明会や就職活動バスの運行、模擬面接の実施などきめ細やかな支援によって就職率が 99.1% となり、過去最高の 99.5% に次ぐ成果をあげた。また、昨年度の 95.6% から大幅に増加した。

##### ○出雲キャンパス

- ・四年制大学化後初めての卒業生を輩出し、就職率 100% を達成した。

##### ○松江キャンパス

- ・全学生を対象とした模擬面接の実施、ハローワーク・ジョブカフェの学内出張相談の実施など就職指導を徹底したことにより、就職率は 98.5% となり昨年度の 97.4% を上回り、平成 19 年の法人化による短大部設置以降、最高の数値となった。

#### (遅れている点 (課題がある点))

##### ○浜田キャンパス

- ・FDセンターにおいて、授業の内容及び方法の改善を図るために組織的活動が行われているが、キャンパスによって取り組みの進捗に差が生じている。浜田キャンパスでは、授業アンケートの回答率が低いいため、回答率の向上を図りながら、学生の授業評価を的確に把握し、授業の改善に活用されたい。また、授業公開を定着させるなど、組織的な取り組みに期待する。

FD (ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development))

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称

## (2) 地域に根ざし、地域に貢献する大学

### (評価の視点)

- ・地域に貢献し、創造性豊かで実践力のある人材育成が行われているか。
- ・地域に知の還元が行われ、地域社会の活性化と発展に寄与する取り組みがみられるか。

### (特筆すべき点 (注目される点))

#### ○全学

- ・平成25年度に採択を受けた「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を順調に実施した。
- ・地域ニーズと大学シーズのマッチングを図る「9月連携会議」を分科会形式で開催し、島根県内の現状・課題について大学と自治体等関係団体で意見交換を行い、研究のテーマ設定につなげた。
- ・遠隔地講義システムを使用し、キャンパス間で公開講座を受講し合える環境を整えたことで、遠隔講義システムで51名の受講があり、より地域に学びの機会を提供することができた。

#### ○浜田キャンパス

- ・浜田市弥栄町の集落で地域の方と農作業を行う「県大農園すこっぷ」、地域の子どもの合宿やクリスマス会を開催する「BBSサークル」などの活動や、地域資源を生かしたビジネスプランを競う「浜田を元気にするアイデアコンテスト」での提案など、学生が主体となった積極的な地域貢献活動が行われた。
- ・県立大学独自の制度である「しまね地域マイスター」認定制度を開始し、「しまね地域共生学入門」の開講により、島根の地域課題に取り組む実践力を持った人材育成を進めた。

#### ○出雲キャンパス

- ・島根県の看護職者の資質向上に向け、認定看護師(緩和ケア)教育課程の設置認定を受け、平成28年度の開設に向けた学生募集においては当初予定10名に対し、20名の入学者を確保した。
- ・出雲キャンパス支援ネットワークの協力を得て、出雲市駅前にサテライトキャンパスを設置し、県民のニーズに対応した公開講座、健康づくり講座(全7回)を開催して、77名の参加を得た。



## ○松江キャンパス

- ・社会人学び直しのための「履修証明プログラム」について、平成28年6月の開講が可能となる準備を行った。3分野8コースのプログラムを用意し、自宅のパソコンで受講できる「e-ラーニング授業」を組み合わせるなど、社会人が無理なく履修できる制度設計を図った。
- ・松江市総合戦略（地方創生）の一環として、松江市と連携してボランティア活動を活発に行ったことから、ボランティアサークル“Volcano”が平成27年度島根県「県民いきいき奨励賞（ユース部門）」を受賞した。

## （遅れている点（課題がある点））

### ○浜田キャンパス

- ・浜田キャンパスの入学者に占める県内者の割合はオープンキャンパス、高校訪問などの取り組み強化などにより、今年度は28.8%と昨年の23.7%より5.1%上昇したが、一昨年以前の水準には回復していない。大学の特徴など一層の周知に努めるとともに、県内高校生や地域のニーズをつかみ、進学先として魅力のある大学づくりに取り組まれない。
- ・県内就職については、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」により、平成31年度までに県内高等教育機関（島根大学、島根県立大学、松江高専）で10%増の目標を掲げて取り組んでいる。浜田キャンパスの県内就職率は25.2%であり、そのうち県内出身者の県内就職率は57.8%と昨年より8.9%の上昇がみられるが、県内企業の魅力に触れるインターンシップ参加者の増加を図るなど一層の取り組みに期待する。

### (3) 北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進する大学

#### (評価の視点)

- ・北東アジアをはじめとする国際的な教育研究を推進し、国際的にも活躍できる人材育成を進めているか。
- ・外国の大学との学術ネットワークの形成や留学生の派遣交流が積極的に行われているか。

#### (特筆すべき点 (注目される点))

##### ○全学

- ・平成26年度に開設した全学運営組織「国際交流センター」において、新たに海外5大学と交流協定を結び、国際交流の環境を整えた。海外協定校の学部学生の留学受入れは、年度計画で短期日本語日本文化研修等の参加者20名以上の受け入れを目標にしているのに対し22名を受け入れたほか、短期留学生を50名受け入れ、学部生との交流を通じて、留学への動機付けを行った。

##### ○浜田キャンパス

- ・島根県立大学と留学先の双方の大学の学位を取得できるダブルディグリー制度を利用する韓国・蔚山<sup>ウルサン</sup>大学校への学生派遣は、昨年引き続き2名の学生を派遣している。また、1年生の派遣候補生に対して語学能力向上のための韓国語特別演習を継続して行っており、制度の定着が評価できる。

### Ⅲ 自主的、自律的な組織・運営体制の確立

#### (1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果ではA評価（順調に進んでいる）である。
- ・外部資金獲得への積極的な取り組み、ネットワーク環境の切り替えによる利便性の向上・コスト削減といった取り組みを実施しており、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均 4.05
---	----------	-----------

#### (2) 実施状況

##### ① 評価にあたって考慮した事項

###### ○全学

- ・科学研究費助成事業について、浜田キャンパスにて研修会を開催したほか、出雲キャンパスでは科研費アドバイザーを配置するなど外部資金獲得の取り組みに力をいれた。
- ・大学施設の学外利用について、3キャンパス統一の要領を作成し、申請書様式の簡素化を図ったほか、利用料金の設定見直しを行った。

##### ② 特に顕著な成果が見られた事項

###### ○全学

- ・より高度な学術情報ネットワークを整備し、教育環境の向上を実現するため、外部インターネット回線を大容量・高付加価値サービスであるSINETに切り替えるとともに、機関リポジトリUSAGIを、自前サーバから国立情報学研究所運営のJairoCloudに移行した。これらの情報設備などの見直しにより、増嵩する経費の節約を図った。

## IV 評価制度の充実及び情報公開の推進

### (1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
- ・学長定例記者会見を毎月1回実施するとともに、大学広報誌「オロリン」を年2回刊行し、大学の最新情報を提供するなど、中期目標の達成に向けて順調に進んでいると認められる。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均 4.00
---	----------	-----------

### (2) 実施状況

#### ① 評価にあたって考慮した事項

##### ○全学

- ・開かれた大学運営を行うため平成20年度に開始した学長定例会見であるが、平成27年度も継続して毎月1回実施し、法人トップの情報発信に努めた。
- ・大学広報誌「オロリン」第4号を6月に、第5号を2月に刊行し、特徴ある活動をクローズアップしながら、大学の最新情報を公開した。

## V その他業務運営に関する重要事項

### (1) 評価結果と判断理由

- 計画項目の集計結果では、A評価（順調に進んでいる）である。
  - ・既存の広報媒体を見直し、より効果的・広範囲への広報に努めたほか、同窓会組織と連携し、学生の活動の場を充実させている。中期目標の達成に向けて順調に進んでいると評価する。
- 以上により、中期目標項目評価としては、A評価（順調に進んでいる）と評価する。

A	順調に進んでいる	評点平均 4.00
---	----------	-----------

### (2) 実施状況

#### ① 評価にあたって考慮した事項

##### ○全学

- ・広報誌の掲載企画の見直しを図ったほか、法人ホームページのトップページをより見やすいように変更するなど、既存の広報媒体の見直しを図った。
- ・平成26年度より実施しているテレビCMの放映を山陽、瀬戸内地域に広げ学生募集を積極的に行った。
- ・施設管理については、定期点検を行い機器の異常の早期発見に努め、可能な限り初期段階の修理を行うことで、機器の停止等の故障を未然に防いでいる。

##### ○浜田キャンパス

- ・同窓会組織と協力し、卒業生による講演、就活生との交流など卒業生と在学生の交流を促進した。

##### ○出雲キャンパス

- ・出雲キャンパスでは、キャンパスモニターの近隣地域モニターを昨年度より1地区増やし計5地区とするなど、広聴活動に積極的に取り組んだ。
- ・隠岐の島町でタウンミーティングを開催し、現地医療職員や高校生一般参加者より広く意見を聴取した。

##### ○松江キャンパス

- ・同窓会主催の交流バスツアーや卒業生を対象としたホームカミングデイを実施し、同窓会組織との交流を図った。

[項目別評価資料]

公立大学法人島根県立大学平成27年度業務実績評価 評点算定表

中期目標(大項目)	平成27年度計画評点			中期目標項目別評価結果	
	中期目標(中項目)	評点合計 (A)	計画項目数 (B)		評点平均 (A)/(B)
	中期目標(小項目)				
I. 社会情勢の変化に的確に対応した大学づくり		12	3	4.00	A
II. 大学の教育研究等の質の向上	5段階評価を行わない項目				
III. 自主的、自律的な組織・運営体制の確立		85	21	4.05	A
1 業務運営の改善及び効率化		40	10	4.00	
(1) 運営、組織体制の改善による効率的、合理的な経営		12	3	4.00	
(2) 人材管理の適正化		28	7	4.00	
2 財務内容の改善による経営基盤の強化		45	11	4.09	
(1) 自己財源の充実		32	8	4.00	
(2) 経費の抑制		9	2	4.50	
(3) 監査体制の充実		4	1	4.00	
IV. 評価制度の充実及び情報公開の推進		28	7	4.00	A
1 評価制度の充実		20	5	4.00	
(1) 組織を対象とした評価制度		12	3	4.00	
(2) 個人を対象とした評価制度		8	2	4.00	
2 情報公開の推進		8	2	4.00	
V. その他業務運営に関する重要事項		80	20	4.00	A
1 広報広聴活動の積極的な展開等		44	11	4.00	
(1) 戦略的な広報の実施		20	5	4.00	
(2) 大学支援組織との連携強化		20	5	4.00	
(3) 広聴活動の実施		4	1	4.00	
2 施設設備の維持、整備等の適切な実施		4	1	4.00	
3 安全管理対策の推進		16	4	4.00	
4 危機管理体制の確保		4	1	4.00	
5 人権の尊重		8	2	4.00	
6 環境マネジメントの構築・推進		4	1	4.00	

評価	基準	
AA	特筆すべき進捗状況にある	(評点平均値 4.3~)
A	順調に進んでいる	(評点平均値 3.5~4.2)
B	概ね順調	(評点平均値 2.7~3.4)
C	やや遅れている	(評定平均値 1.9~2.6)
D	大幅な改善が必要	(評定平均値~1.8)

## 4. 参考

### (1) 学生確保の状況

#### ① [一般入試志願倍率]

区分		H 2 5	H 2 6	H 2 7
浜田	公立大学 人文・社会 学部系統順位	8. 3 3倍 (7位/33校)	8. 1 2倍 (8位/33校)	8. 3 9倍 (9位/33校)
出雲	公立大学 薬・看護 学部系統順位	6. 1 7倍 (15位/44校)	9. 3 1倍 (3位/45校)	2. 5 4倍 (43位/45校)
松江	公立短期 大学順位	3. 6 0倍 (9位/16校)	2. 9 8倍 (11位/16校)	3. 2 8倍 (12位/15校)

#### ② [入学者に占める県内者割合]

区分	H 2 5	H 2 6	H 2 7
浜田	3 5. 9%	2 3. 7%	2 8. 8%
出雲	6 1. 4%	5 8. 8%	6 3. 8%
松江	6 4. 8%	6 6. 4%	6 9. 8%

### (2) 就職の状況

#### ① [キャンパス別就職率]

区分	H 2 5	H 2 6	H 2 7
浜田	9 5. 3%	9 5. 6%	9 9. 1%
出雲	1 0 0. 0%	—	1 0 0. 0%
松江	9 5. 2%	9 7. 4%	9 8. 5%

#### ② [県内就職率]

区分	H 2 5	H 2 6	H 2 7
浜田	2 7. 7%	2 3. 7%	2 5. 2%
出雲	7 0. 6%	—	5 9. 5%
松江	7 5. 0%	6 6. 7%	6 8. 6%